

令和2年度第1回島根支部評議会議事概要報告

開 催 日	令和2年7月16日(木)
場 所	全国健康保険協会島根支部 大会議室
出席評議員	伊中評議員、小田川評議員、葛西評議員、鷗鷗評議員、塩飽評議員、杉原評議員、丸山評議員、光延評議員(議長)、宮本評議員 (五十音順)
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和元年度全国健康保険協会決算について 2. 令和元年度島根支部事業実施結果及び令和2年度島根支部事業計画について 3. 島根支部医療費等分析結果報告について 4. その他
議 事 概 要 (主な意見等)	<div style="background-color: #cccccc; padding: 5px;">○支部長挨拶</div> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 本日は、最初に、令和元年度決算についてご説明いたします。今後、この決算を踏まえた財政見通しやこれまでの経緯等を踏まえる中で、令和3年度保険料率について協議していくこととなります。なお、例年ですと、次回10月開催の評議会でも平均保険料率に関する論点整理、意見集約を行い、来年1月に島根支部保険料率について意見提出するという流れになりますが、新型コロナウイルス感染症(以下、「コロナ」)拡大による企業業績悪化に伴う賃金の減少や保険料納付期限延長等による保険料収入の減少が、財政運営に与える影響も注視していく必要があります。 ▶ また、政府において検討が進められている「全世代型社会保障改革」においては、コロナの影響により最終報告のとりまとめが年末まで先送りとなったため、この秋の臨時国会で提出予定となっていた医療関連法案(後期高齢者の医療費を原則2割負担など)も来年以降にズレ込むことになり、今後の動向を注視していく必要があります。 ▶ 次に、令和元年度支部事業については、多くの項目で目標、KPIを達成することができました。これも職員が持ち場持ち場で、また、相互に協力して取組んだ結果の賜物であり、評価に値するものと考えております。 ▶ 令和2年度支部事業については、前回の評議会でのご意見等も踏まえ実施に向け検討しておりますが、コロナの影響による事業中止や実施時期等の見直しを含め軌道修正せざるを得ないものと考えております。

【議題 1】令和元年度全国健康保険協会決算について

資料 2、3 により説明

【主なご意見】

《学識経験者》

島根支部の収支差がプラスになったことについて、全国と比較してどういった要因が寄与したのか。平成 30 年度決算時も同じ傾向だったのか。

(事務局)

平成 30 年度決算においては収支差プラス 7 百万円、令和元年度決算ではプラス 128 百万円に拡大した。令和元年度決算において全国計では医療給付費が見込みよりも高かった一方、島根支部は医療給付費が見込みよりも低くなったこと及び高齢化に伴う年齢調整が（マイナス）が多かったことなどから収支差がプラスになった。

《学識経験者》

収支差がプラスとなったことで結局どうなるのか。

(事務局)

現時点ではあくまでも参考だが、令和元年度の総報酬額を用いて試算すると料率を 0.02% 引き下げる方向に働くこととなる。

【議題 2】令和元年度島根支部事業実施結果及び令和 2 年度島根支部事業計画について

資料 4～7 により説明

【主なご意見】

《学識経験者》

ヘルス・マネジメント認定制度等、事業所に対する健康づくり事業を複数年実施してきているが、事業所側の意識の変化、或いは医療費の引き下げ効果は表れてきたのか。

(事務局)

健康宣言事業所が令和元年度末時点で 1,096 事業所に拡大したことは健康づくりに対する事業所側の意識の変化と捉えている。またインセンティブ制度の WEB バナー広告を実施したところ、3 万回を超えるクリック数となり、関心の高さが伺えた。

《被保険者代表》

コロナ拡大が令和 2 年度事業計画にどのように影響したのか。

(事務局)

令和 2 年 10 月に予定していたウォーキング大会開催の中止を決定した。集団健診の実施等、感染症拡大の影響を受ける事業が多くあるが、状況を見ながら対応することとして

いる。

《被保険者代表》

5～6月に職場で集団健診を実施したが、コロナを懸念する声が従業員から出ていた。健診を見送る事業所が出ていることが想定されるため、「こうすればコロナのリスクが低く健診を受診することができますよ」という視点から広報を実施してもよかったのではないかと。

(事務局)

医療機関側で受け入れることができないケースも有り、支部としてはどうすることもできないが、今後とも健診受診勧奨の広報は実施していきたいと考えている。

《学識経験者》

健診を専門にしている機関では7月から複数社を集めた集団健診を再開、学校健診は9月以降の実施が多いと聞いている。事業所の定期健診については例年通りの件数を実施することは難しい状況であると捉えている。

事業所によっては産業医を含めた部外者を受け入れないことがあるため、特定保健指導の実施率が低くなることも想定される。WEBによる指導手法を取り入れることを考えたほうがよい。ちなみに、標準体型の人は外出自粛による体重の変化があまり見られないが、従前より肥満傾向にある人は“コロナ太り”する傾向にあり、特定保健指導が重要になってくる。

《学識経験者》

学生とWEBを通じてコミュニケーションをとる機会が増えており、普段言えないこともWEBを通してであれば会話が多くなる等の好影響もあっている。

(事務局)

支部保健師等による特定保健指導は3～5月は停止し、6月下旬から再開したところ。この間の初回面談の実施件数は格段に少なくなっているが、外部委託により実施している遠隔指導の実績は落ちていない状況。全国的にも同じ傾向にあると思われる。

《事業主代表》

インセンティブ制度の各指標におけるデータの取り方についてもコロナ拡大の影響を加味する必要があるのではないかと。

《学識経験者》

コロナにより医療費支出は少なくなることが想定されるため、収支差はプラスに拡大することが想定される。

(事務局)

医療費総額が下がる一方で、企業業績悪化による総報酬額の減少で保険料収入も減少することが想定され、現時点では見通しを立てることは難しいと考えている。

《学識経験者》

コロナによる影響について、先般、労働者を対象に収入の減少、働き方の変化、特別定額給付金等のアンケート調査を実施したところ、低所得者層は明らかに収入の減少傾向があったため協会けんぽへの影響が懸念される。

【議題3】島根支部医療費等分析結果報告について

資料8により説明

【主なご意見】

《学識経験者》

島根支部は新生物の医療費が全国平均に比べて高く、特に胃がんが高い結果となっている。この点についてはピロリ菌の検査及び除菌を実施することで効果があると思われる。

また、外来の精神疾患の医療費が高い点については、都会で就職した人が統合失調症になって働けなくなって地元に戻ってくるのが原因の一つといえる。

運動習慣に課題があることについては、過去に調査を実施してきているが、公共交通機関利用者が少なくマイカー利用者が多いことが原因であることがわかっている。

《学識経験者》

新生物のうち乳がんの医療費が高いことはショックである。がん検診を実施できる健診機関が少ない等、提供体制に課題があるかもしれないが、早期発見早期治療が可能な疾病なため予防の推進に期待したい。

精神疾患の医療費が高いことについて、隠岐や中山間地域ではUターンやIターンを推進しているが都会で精神を病んで地元へという方が多く、また若者の精神疾患が多くなっていることが調査結果からわかっており、職場にとっても大きな問題となっていると認識している。

《被保険者代表》

医療費が高く件数が多い疾病をより掘り下げて分析すると良いと考える。今回の分析結果では新生物に課題があることがわかったため、例えば他県との比較、がん検診を受けていないのか、がん検診を受けても精密検査・治療につながっていないのか、重症化してから入院治療しているのか等、様々な視点から分析することでより効果的な事業につながっていくのではないかと考える。

《被保険者代表》

その他の運輸業は各リスク保有率が高くなっているが、この業種は労働条件が非常に悪いことに起因しているように思われる。バス・タクシー運転手は一日平均15時間労働しており朝だけ食べる、または夜中に食べるといった傾向や低賃金が理由でインスタント食

品が多くなるといったように食生活が大きく乱れている。労働条件の改善を関係省庁へ働きかけていきたい。

《学識経験者》

今回の資料を拝見しただけでも医療費の逡減に寄与できる対策を実行できそうな点がある。令和3年度においては医学と統計学の専門家からアドバイスを受けながら分析事業を実施しては如何か。

《学識経験者》

医療費の観点も必要だが、働く人の幸福につながるような事業展開も期待したい。
(事務局)

分析事業のあり方について令和3年度に向けて検討する。

【議題4】その他

- 全国健康保険協会の業績に関する評価結果について（資料9により説明）

【主なご意見】

特になし

特記事項

- ・傍聴者：山陰中央新報社記者1名
- ・次回開催：令和2年10月予定